

## 令和8年度 板橋区立若木小学校 学校経営方針

### 木こりのジレンマ

ある日の朝、旅人が山の中を歩いていました。旅人が深い森の中をしばらく行くと、ノコギリで木を切り倒している木こりがいました。

夕方になり、旅人は同じ道をたどって帰りを急いでいました。すると、朝と同じ木こりが、一生懸命に木を切り続けています。旅人が気になって様子を見ると、木こりのノコギリはボロボロで、刃こぼれしています。見かねた旅人は、木こりに「一息入れて、ノコギリの刃を磨いたらどうですか」と声を掛けました。すると木こりはこう答えました。「木を切るのに忙しくて、刃を磨く時間なんて、これっぽっちも無いですよ」

(イソップ童話より)

「木を切り倒すのに6時間与えられたら、私は最初の4時間を斧を研ぐのに費やすだろう」

(エイブラハム・リンカーン)

## I 学校の方針

### 1 学校経営の基本的な考え方

めまぐるしく変化し、将来の予測が困難な社会において、国がめざす「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」に資するために、学校教育を通じて「持続可能な社会の創り手の育成」の充実を図り、広く社会貢献していく。

子どもたちのウェルビーイングを高めるためには、**教師の授業力・専門性向上が基盤**となるが、教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要であり、**教職員としてのウェルビーイングの向上**も図っていくことをめざす。また、子どもたち一人一人のウェルビーイング向上により保護者や家庭、地域、社会にウェルビーイング向上の循環の輪を広げていく。

学校教育に関連する課題は多岐にわたり、複雑に絡み合っており、持続可能な学校経営のためには、**個々の教員が成長し、力を発揮**することは勿論であるが、それ以上に組織として**教員同士・学年同士で連携・協働**していくことが**基盤**になる。

権利の主体である子どもたち一人一人が自己及び互いを尊重し、子どもをまんなかに学校・保護者・地域とが**連携・協働**しながら共に成長していける学校をめざす。

## 2 学校教育目標・めざす児童像

※教員はもちろん、子どもたちも日々意識して取り組める目標か、検証していく。

学年目標・学級目標は、この学校教育目標と関連付け、日頃の教育活動で意識的に取り組み、価値付けしていく。

「ともに生きる」

### ◎考えて行動する子【主体性】(◎本年度の重点目標)

未知の問題に対して、自ら考え、判断、行動できる問題解決力の育成

### ○思いやりのあるやさしい子【人間関係】

相手の立場や気持ちを考え、よりよい人間関係を築く態度の育成

### ○人のためにはたらく子【社会参画】

相手の立場を尊重し、友達と協働する態度の育成

### ○ねばり強くあきらめない子【自己実現】

見付けた課題の解決に向けて自ら挑戦を続ける向上心の育成

### ≪目標の実現に向けた段階≫

#### 1st Stage【4～5月】 学習・生活のルールづくり

学校の教育目標達成に向けて、子どもたちの声を聴きながら学校ルール「な・か・よ・し」の範囲内で学年・クラスのルールを明確化していく。「ともに生きる（共生）」に反する他の人の権利を奪うことは認めない。

#### 2nd Stage【6～7月】 学習・生活の習慣化

ルールの遵守状況について、子どもたちと一緒に振り返るとともに、「板橋区授業スタンダード」を徹底した授業により「めあて」・「ふりかえり」を習慣化する。教科書の徹底した活用及び教師の吟味した発問や説明により「読み解く力の育成」を図る授業を習慣化する。

#### 3rd Stage【9～12月】 学習・生活の一層の充実

「読み解く力の育成」及び「板橋区授業スタンダード」を基盤に、「振り返りの質の充実」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図り、学習・生活の一層の充実につなげる。

#### 4th Stage【1～3月】 学習・生活の振り返り

子どもたち自身が、自己の成長を実感するとともに、次への工夫改善につなげようとする事ができる取組を実施する。

## 3 めざす学校像

「子どもたち一人一人が自分も他者も大切にし、ともに伸び、自己実現できる学校」

子どもたちが「学校に行きたい、学校で学ぶのが楽しい、今日も成長した！」と実感できる学校

保護者が「わが子を若木小学校に通わせて良かった！」と思える学校

地域の方が「若木小学校は、私たちの誇れる学校！」と胸を張れる学校

教職員が「若木小学校で勤務してよかった。自身の指導力が高まった！」と実感できる学校

#### 4 めざす教員像

◎学び変え続ける教員 ・自ら学びに出る（年間3回以上）

「MIRAI SCHOOL アカデミア」 ※今年度はハイブリッド型（以下のうち1回以上参加）

4 / 2 2 「自己調整学習」奈須正裕氏（上智大学）

6 / 1 2 「ユネスコスクール」手島利夫氏（元江東区立八名川小学校）

8 / 2 8 「子どもを真ん中に据えた教育」岩本歩氏（大日向小学校）

10 / 2 9 「福祉教育」佐藤陽氏（十文字学園女子大学）

「指導教諭・教科等指導専門官の授業」「研究校・先進校の視察」

「東京都・板橋区の選択研修」等

○学び合う教員

・チャレンジする授業の発信 ・校内 OJT 体制の整備 研修・出張で学んだことの伝達及び共有

○危機管理意識の高い教員

・日頃からの報告・連絡・相談・記録（5W・1H）の徹底

・「命を守る」ための判断、言葉かけ、計画的な指導

・複数対応

・「いじめ対応 100」小さな芽の段階から迅速に対応・正確な記録

・不登校対策・対応 関係機関等どこにもつながっていない子ども・家庭を0（ゼロ）に！

#### 5 特色ある学校づくりの具体策

○授業革新を中心に各教育活動の充実を図るための「生成 AI」の効果的活用による働き方改革推進

○「板橋区 授業スタンダード」「読み解く力の育成」「一人一台端末の活用」の徹底・充実を図る「校内 OJT 体制の構築」

○指導教諭の実践共有による「学級活動の充実」「豊かなスポーツライフの基礎づくりの充実」

○学校ルール「な・か・よ・し」の見直しを図る、児童会が中心となった「ルールメイキング」

「仲間思い」「活気がある」「よく笑い」「信頼し合える」

○異年齢集団の中でそれぞれが役割を果たし、人間関係形成能力を育成する「なかよし班活動」

○地域とのつながりを強め、子どもたちの「愛校心」「郷土愛」を育む「さくら草栽培」「商店街での学習」「けん玉チャレンジ」

○「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」と校務改善の充実を図る「一人一台端末の活用推進」

○学校教育活動の充実のための「外部団体・保護者・地域の人材活用」

○授業及び学習環境の「ユニバーサルデザイン化」

・きれいな学校や教室 ・分かりやすい授業 ・構造的な板書 ・精選された文章

・教室前方の最小限の情報 ※古い情報・不要な情報は削除する

○よりよい教育活動のために教職員の心身の充実を図る「ウェルビーイング休暇」取得

#### 6 令和8年度の重点

○「succession（継承）」×「update（更新）」「基礎的・基本的学習内容の定着」

「あたりまえのランクをアップデート」

・「succession（継承）」・・・考えて行動し、8時30分を迎える 聴く

・「update（更新）」・・・それぞれの活動の質の向上 学力の実態把握と実態に応じた指導支援の充実  
※補習教室等の早期実施も含む

- 教職員の重点 「・共汗（みんなです） ・継続（続けてする） ・徹底（とことんする）  
・更新（アップデートする）」

学級、子どもの数だけ「あたりまえ」がある。その多様性を認めながら学級も子どもも成長させる「あたりまへのランクのアップデート」を

## II 経営のスタンス

- 1 「あなたが大切」 一人一人の子ども・教職員を大切にする 互いを大切にできない現状は防止徹底
- 2 「授業で勝負」 子どもたちの自己実現を図ることができる教育の充実のために常に授業革新の推進  
**そのための働き方改革**
- 3 「なぜ・なぜ3回 プラスワン」 前例踏襲を打破し、目的や本質に迫り、1μでも前進を  
**質問に対して「前回もこうでした」はタブー**
- 4 「責任と責任感を」 最終的な責任は管理職。それぞれの分掌（学級や部会・委員会の役割）については、  
一人一人が責任感をもって対応を

## III 求める姿勢

- 1 教職員個々の基盤
  - ・ミッション（使命） ・パッション（情熱） ・イノベーション（創造） ・リスペクション（尊敬）
  - ・4つのリミッターの打破  
「前例踏襲」いいじゃないか今のままで 「思考停止」なにがおかしい今のままで  
「固定観念」決まっていることだ今のままで 「自己制止」これ以上自分には無理だ今のままで
- 2 学校組織としての土台固め
  - ・共汗（みんなです） ・継続（続けてする） ・徹底（とことんする） ・更新（アップデートする）

## IV 求められるモラル

社会人として、多様な立場の方々から好感をもたれるような対応を心がける。

- 1 子どもの人権を尊重する
  - ・授業では必ず「さん」付け ・子どもの取り組みや作品へのフィードバック
  - ・子どもを焦らせない。教育のプロとして子どもたちの先の先の先をいく。
- 2 教職員の服務の徹底
  - ・服務には厳しく、互いに声を掛け合える風通しのよい職場風土の醸成
- 3 さわやかな言動
  - ・出退勤時、授業時など、いつでも、どこでも、誰にでも不快感を与えない服装
  - ・挨拶・返事・言葉遣い